

総合計画調査特別委員会	
1. 日 時	令和2年12月8日（火）
2. 場 所	議員協議会室
3. 出欠席議員	（出席）隅田雅春、大上和則、原田豊彦、前田えり子、上田英樹、丹後政俊、安井博幸、足立義則、向井千尋、園田依子、大西基雄、栗山泰三、かんなん芳治、渡辺拓道、吉田知代、河南克典、小島政行、森本富夫
4. 市部局	企画総務部
5. 協議事項 議案第88号 第3次丹波篠山市総合計画の策定について	
6. 議事の経過	
開会	
隅田委員長あいさつ （開 会）	
日程第1 議案第88号 第3次丹波篠山市総合計画の策定について 担当課より議案書に基づき説明	
＜主な質疑応答等＞	
安井委員	この議案の内容としては、議会での調査結果やパブリックコメントが反映されているということでしたが、市総合計画審議会の委員に対してお示しはされたのか確認したいと思います。

企画総務部	<p>総合計画審議会の委員につきましては、パブリックコメントの実施段階やパブリックコメントを受けた段階において、状況を報告しています。基本的には、総合計画審議会の答申を原案とさせていただいており、その中で様々なご意見をいただきました。例えば、この総合計画の作り方について、今後のまちづくりの中で、計画から施策立案、あるいは実施段階まで市民参画でやっていくというような姿勢についても、反映させていただきました。今回の議案についての意見を改めていただいたということはありません。</p>
安井委員	<p>この計画（案）を審議会の方々に見ていただいたのかを確認させていただきたいと思います。</p>
企画総務部	<p>パブリックコメントの概要及び市の回答、対応については、委員の皆さんに送付しています。ただし、最終的な議案としての第3次総合計画（案）については、今の段階では確認いただいておらず、議決をいただいた後にお示しする予定です。</p>
渡辺委員	<p>パブリックコメントに関して、EBPM（エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案）についての説明があり、この点を重視しながら第3次総合計画を進めていきたいとのことですが、EBPMを進めていくに当たって、その基となるエビデンス、データの収集について、基本計画各論に反映させる等の検討はされたのでしょうか。</p>
企画総務部	<p>政策立案に係るエビデンス、根拠となる情報データの収集については、基本的には、これまでから必要であったものと認識しています。例としては、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定する際にも、RESAS（リーサス：地域経済分析システム）等の活用は国からも示されているほか、各種計画を策定する際にも人口統計や、観光関係でいえば観光客の動向等については、情報収集をしてきました。今回のパブリックコメントがあったことから、根拠に基づく政策立案といったものを追記したということではなく、これまでから当然に必要なものであると考えているなかで、改めて市の姿勢として明確にしたということであり、追記に伴う基本計画各論の変更はしていません。</p>
渡辺委員	<p>第2次総合計画策定の際には、こうしたEBPMという考え方が、私自身も欠けていたのではないかという思いがあります。第2次総合計画においては、財政事情等の影響により、これまで市が行ってきた調査といったものが抑制的になっていたのではないかという印象を持っています。こうしたなかで、これまでは政策資源を補完する役割として、各種団体からの“要望”が機能してきたと考えています。要望も重要であります</p>

が、やはり既存の事業推進のために並行して行われるデータ収集も重要であり、市として、計画を進めていく上で必要なデータ収集については、しっかりと取り組んでいく姿勢は堅持いただきたいと思います。こうした考え方については、計画の中に含まれているという理解でいいでしょうか。

企画総務部 統計データなどの根拠に基づく政策立案については、必要不可欠あるいは当然のことであると認識しており、先ほど申し上げたRESASやKPI（重要業績指標）等の必要性については浸透しつつあると考えています。今回、基本構想の「第6章 計画の実現に向けて（みんなで取り組む地域づくり）」の「2. 行政の姿勢と役割」において、根拠に基づく政策立案を進めていく旨、明記しているなか、データ収集については基本計画各論で記述するまでもなく、総論的に必要不可欠であるという認識であることから、むしろ基本計画の前提としてその考え方があると考えています。

安井委員 根拠に基づく政策立案について、追記されたことは評価できると考えていますが、さらにRESASやEBPMという言葉に加えて解説も含めて、明記してはどうかと思います。また、資料編の中に当市のRESASのデータを掲載して、こうした資料が重要であることを示すことで、市の姿勢が明確になるのではないかと思います、いかがでしょうか。

企画総務部 EBPMという表現を用いずに、日本語として「統計資料やデータ等の根拠に基づく政策立案」という表現していますが、この理由としては、市民の方が総合計画をご覧になったときに、より理解し易い表記とすることが必要であると考えたことによります。また、当市のRESASのデータを提示してはということですが、多くの統計資料やデータがある中のひとつにRESASがあり、その他にもビッグデータとして公表されているものや市が独自に調査している情報等があることも踏まえると、RESASのデータを総合計画に掲載するという判断はしかねるところであります。

安井委員 EBPMやRESASという言葉がわかり難いという懸念から日本語で表現したということはもちろん理解出来ます。ただ、専門家の間では一般化しつつある言葉でもあることから、こうした考え方が浸透しつつあることを総合計画を目にした方が感じ取ることができるように、その言葉を用いた上でその説明も行うことが良いのではないかと思います。また、こうしたデータに基づいて、市は取り組んでいるということが、メッセージとして伝わることもあると思いますので、検討願いたいと思います。

隅田委員長 市当局においては意見として承ってください。

栗山委員	第3次総合計画については、公共施設等総合管理計画との関連性が重要ではないかと考えており、今後10年間における取り組みの考え方や方法なりを示す必要があるのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。
企画総務部	資料48ページから49ページ「1.道路、河川、市営住宅、公園などの適正な維持管理を行う」をご覧ください。この中で公共施設と言われるものについて、どのような方向性で進めていくか、考えていくかを記述しています。また49ページの下段においては、関連する計画等ということで、丹波篠山市公共施設等総合管理計画を示しています。令和3年度には当該計画について見直しが行われると聞いており、この見直しや社会情勢等の見直しも踏まえて、総合計画の見直しに関して検討していきたいと考えています。
栗山委員	水道事業に関してもどのように進めていくか、取り組みについて記述する必要があるのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。
企画総務部	48、49ページの河川や道路等に関しては、先ほど申し上げたとおりであります。上下水道事業については、50、51ページに記述しております。従来から「主要な取り組みの概要」の「(行政の役割)」において、「上下水道施設・設備の改修や整備計画の策定を行い、計画的に組み込みます。」と記述していることに加え、議会からの申入れの内容を検討し、「現状と課題(いま求められていること)」において、「公共施設等総合管理計画などを踏まえ、計画的で効果的な管路や各施設の更新が求められています」と追記しており、公共施設等の維持管理については、問題意識とともに、対策についても記載しています。また、基本構想の9ページ、「第2章 社会潮流の変化と丹波篠山市の課題」においては、「社会インフラの老朽化」の項目を設け、「長期的な視点を持って更新整理統合、長寿命化を計画的に行うことにより、限られた財政状況の中で負担を軽減、平準化するとともに、公共施設の最適な配置をすることが課題となります」というように、議員ご指摘の点について記述しています。
上田委員	基本構想は10年計画、基本計画は5年計画ということで、社会情勢等によって適宜見直していくということですが、これからの重要な点としては、分野別計画、個別の実施計画にあると考えています。これらの計画については、平成25年度から改正等されていない計画があることも含め、市の最上位計画である総合計画として、しっかりと分野別計画の見直しに取り組みされるよう押さえていただきたいと思います。
企画総務部	総合計画については、最上位計画としての位置づけになることから、策定できた段階で、分野別計画を所管する各部署に周知徹底をし、修正等に取り組むようこちらから働きかけていきたいと思っています。

上田委員	分野別計画の見直しによって実施事業等の変更も出てくると思いますので、よろしくお願いします。
渡辺委員	上田議員から分野別計画に関する重要な指摘がありました。しっかりと対応いただきたいと考えています。議案を議決した後に、各課で見直しを図り、総合計画と整合させていくといった答弁がありましたが、特に気にしている計画として、国民保護計画があります。この計画については、策定後かなりの年月が経過していますが、そのままになっており、日本の平和、丹波篠山の平和が当たり前が続くかのような前提でこれまできています。市職員のみならず議員も市民の命を守る非常に重大な責任を負っています。こうしたことも踏まえ、各分野別計画の見直しについては、総合計画を議決した後、令和3年度からということではなく、議決後速やかに再確認、点検をしていただく必要があると考えていますが、見解をお伺いします。
企画総務部	国民保護計画については、平成25年度からということで策定後、7年経過しています。議決をいただいた後、それぞれの考え方を踏まえて、各個別計画の検討をしていただく、そうした意識を持ってもらうように、こちらから速やかに働きかけをしていきたいと思っています。
渡辺委員	日本国内あるいは世界的な視点を持って個別計画についてもしっかりと早急に点検するべきところは点検していただきたいと思いますのでよろしくお願いします。
安井委員	72 ページ「1. 学校教育、学習環境を充実させる」について、出生数が年間250人前後まで減ってきています。7年程すれば小学校に入学してくることになりますが、こうしたことも踏まえると、これからは学校の統廃合も確実に求められることとなります。学校の再編について記述がないように感じていますが、こうしたことを反映しておくべきではないでしょうか。
企画総務部	学校教育の分野についても、それぞれ個別の分野別基本計画があり、73 ページには、5つの計画を記述しています。これらの計画の中には、令和6年度や4年度が計画期間の最終年になるものもあることから、次の計画に向けて今後研究されていくものと考えています。学校の統廃合については、これまでから小学校等については、城東小学校や多紀小学校、そして城北・畑小学校で実施しているなか、議員のお考えとしては、更に今後どうなっていくのかという質問であると認識しています。人口減少を一定受容した中で、どのようにまちづくりを考えていくのかを基本構想で示しており、こうした考え方を踏まえて、分野別計画の改定が今後、進んでいくものと考えています。

安井委員	<p>小学校だけではなく、中学校が問題であると思っています。現在、市内には、中学校が5つありますが、そのうち3つの中学校では、1学年1クラスになっています。部活動の問題も出てきていますが、こうした問題は、小手先の対応で対処できるものではなく、やはり一定程度、学校の規模がなければ部活動そのものの維持が難しい状況になります。こうした点も踏まえて、具体的に記述しておく必要があると考えており、総合計画をもう少し踏み込んだ内容とし、分野別計画を引っ張っていく、方向性を示す記述とする必要があると思いますが、いかがでしょうか。</p>
隅田委員長	<p>その点については、市民や各議員によっても意見が異なることかと思えます。基本計画で取り上げるべきものなのか、まだ各分野別計画で検討していくべきものなのか、といった点については、機を改めて検討されてはどうかと思います。本日の審査においては、安井委員の意見ということでお願いします。</p>
栗山委員	<p>同小目標の「この小目標でめざすこと」において、「(前略)「知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」を新しい時代に必要となる資質・能力の3つの柱として、確かな学力を身に付けさせる取り組みを進めます。教育研究所においては、子どもたちの資質・能力の育成を基盤とした教育の展開に向けて、教職員の資質向上を図ります。また、子どもたちが安心して学校生活を送るために、安全で質の高い学習環境をめざします。」とありますが、かつては、中学校の教育環境があまりよろしくない状況であったんですが、今は小学校においても、かつての中学校のような状況になりつつあるという情報を聞いております。総合計画は、大きくは今後10年間における方向性、取組ということですから、こうした部分も踏まえて、記述する必要があるのではないかと思います。現場で何の課題もないというようなことではないので、やはり記載する必要があるかと思えます。</p>
隅田委員長	<p>個別事案は、当然に各地域、各学校等であると思いますが、それは適切に、その場面場面で対応していくほかないと考えます。本日の審査は、あくまでも議案としての総合計画に対するものであって、10年間の基本構想、あるいは前期5年の基本計画の内容についての質疑をお願いしたいと思えます。</p>
栗山委員	<p>かつて中学校がそうした状況にあったということで、今はよくなってきていることは確かなんです。ただ、小学校において、少し困った事案が出てきつつあることから、そうしたことも踏まえる必要があると思えます。</p>
隅田委員長	<p>実際に発生している現場の課題については、議員活動なり、所管の委</p>

員会で対応されるべきと考えます。本日は総合計画の審査であり、個別の事案を示すという議論は趣旨が異なっていると考えます。

栗山委員 この事案がなければ私としてもこれでいいかと思いますが、実際にそういうことが出てきてるので、必要でないかと思いい見しています。

隅田委員長 現場では様々な事案が出てくるとは思いますが、その対応を次の後期基本計画に入れるべきものなのか、実施計画3年の中で対処すべきものなのか、また対策を講じて解決を図るのかは、その案件に応じて、判断していくほかないと考えます。今栗山委員が言われたことは、総合計画の審査としては馴染まないと思います。これに関し、他の委員の意見がありましたらお願いします。

小島委員 72、73ページには学習環境の充実に関する記述が既にあることも含め、委員長の意見に賛同します。

企画総務部 72、73ページについては、あくまでも学校教育環境充実させることで、子どもたちの環境、あるいは生きていく力を育てていくということが、大きな趣旨であると考えます。73ページの「施策の展開の方向」においては、「新しい時代に求められる資質・能力を子どもに育てていくために、教職員と専門スタッフ（心理、福祉、部活動、特別支援教育、地域連携等）によるチーム体制の充実を図ります。」と記載しておりますので、議員の懸念されていることも、大きな枠としては問題認識を持っているとご理解いただければと思います。

栗山委員 学校運営協議会の役割は大きいと思っておりますが、記述が見当たらないので、記述がありましたら、教えていただきたいと思っております。

企画総務部 学校運営協議会という名称は使っていませんが、73ページ「施策の展開の方向」において、「地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）を推進することにより、地域の教育力の向上と地域からの学習支援の充実を図り、地域全体で子どもの成長を支えます。」としています。地域の皆さんや評議会の評議員さん等も含めた中で、連携しながらやっという趣旨を読み取っていただければと思います。

栗山委員 この記述で結構かと思っております。

かんなん委員 基本構想の7ページ「第2章 社会潮流の変化と丹波篠山市の課題」の「2. 新型コロナウイルス（COVID-19）の流行と生活様式の変化」において、「（前略）めまぐるしく変動する社会情勢に総合計画の期間中であっても適応できるよう、適宜見直しを図ります。」とありますが、具体的な見直しの手続としては、現状どのような想定をされているのか教えていただきたいと思っております。

企画総務部 COVID-19、新型コロナウイルス感染症がどのような結末になるのかは、

現段階で見当は付けられないとみています。こうしたことも踏まえ、見直しの幅あるいは時期等、どのような見直しとするかについては、現段階でお答えはすることは難しい状況であると考えます。軽微な変更等に対応できるということであれば、実施計画等を策定し、議会に報告するといった進め方、選択肢も想定されますが、その時期によっては、次期の基本計画の見直しの中で対応していくことも考えられます。逆に大きな変更、根本的な見直しが必要だということであれば、今回の策定と同様の過程を経ることになると考えられます。

かんなん委員 基本構想上、見直しを記述されている以上、大きな変更が前提になっているのではないかと思います。そうした際に、円滑、迅速に見直しができるよう手続についてはあらかじめしっかりと準備していただきたいと思います。

企画総務部 今回、議決の対象にさせていただいていますのは、基本構想、そして5年間の前期基本計画であります。この内容が大きく変わる場合については、当然に議会で審議いただく必要があると市としても認識しています。見直しに関しては、ご指摘のようにスピード感が必要であることから、速やかな総合計画審議会の開催や変更の取りまとめ、議会審議、市民への周知という手順については、これから想定し準備したいと思います。

安井委員 第3次総合計画の副題に、将来像として「丹波篠山」だからこそ実現できるあなたの夢・安心・未来」というキャッチフレーズがあります。これに対して、パブリックコメントでは、印象が弱いといったことや理屈っぽくアピール力に欠けている、また、キャッチコピーの専門家の意見を聞いてはどうか、というような意見が出ていました。担当部署として、このキャッチコピーについてはどう考えておられるか。そして、専門家の意見を聞いたのかを説明いただきたいと思います。

企画総務部 キャッチコピーについては、様々な意見はあろうかと思いますが、総合計画審議会の委員のみなさんが議論をされる中で、アンケート調査やワークショップを通じて、市民のみなさんの意見を聞かせていただきながら、その思いや願いを踏まえて、つくられたものです。市としては、市民の意見や審議会での議論を尊重させていただき、今回の提案に至っています。また、キャッチコピーの専門家からの意見については、一つの方法かと思いますが、今回については、市民の皆さんの意見を踏まえた手作り感のあるキャッチコピーとして、市民の皆さんにアピールしていきたいと考えており、専門家の意見をいただいているわけではありません。

大上副委員長あいさつ

閉会